

りつとう 再 発見

216

古代近江の要

栗東の歴史文化ストーリー（I-C）

『栗東市文化財保存活用地域計画』（令和4年作成）で設定した、関連文化財群の中から、今回は栗東の奈良時代（8世紀）を中心としたストーリーを紹介します。

栗東は古代の行政区域では近江国栗太郡（今の栗東市・草津市・守山市・大津市の一部）にあたります。現在の栗東市は国道1号と8号が分岐し、栗東インターチェンジがあるなど交通の結節点で、千数百年前の古代において

路である東山道と東海道が通る交通の重要な場所でした。

近江国は、宮都や寺院の

造営に不可欠であつた鉄や

木材などの供

給地でした。

古代栗太郡内の瀬田丘陵にある木瓜原遺跡や野路小野山遺跡（いずれも草津市）などでは、製鉄などを行つていた大規模な生産施設が明らかになっています。

近江国（国府）は栗太郡に置かれていました。地方の役所ではあります。が、近江国の財力を背景に、藤原仲麻呂など有名な政治家が国司の長官を務めています。国府跡は大津市大江で発見され、瓦葺の壮大な施設があつたことが分かっています。

このように重要な場所であつた古代の栗太郡ですが、その役所（郡衙）が置かれたのが、栗東市岡遺跡（岡・目川・下戸山地先）です。昭和から平成の初めにかけて実施された岡遺跡の発掘調査では、役所に關係する奈良時代の建物跡がまとまって発見され、長舎で囲まれた正殿や格式の高い八脚門をかまえていることが分かりました。租税を収納した倉庫跡も発見されています。

ところで岡遺跡の近くには小槻氏（おつき）と



▲発見された奈良時代の倉庫跡（岡遺跡）



▲岡遺跡の石碑（小槻大社御旅所）

栗東の関連文化財群

歴史文化要素を、歴史的な性格や位置づけに応じて、周辺の環境を舞台に一体的・総合的にとらえたものを関連文化財群とします

歴史文化の特徴	テーマ	関連文化財群（ストーリー）
原始・古代から現代まで交通の結節点	テーマI 材が織りなす繁栄	I-A栗太の小国（おほくに）の誕生
		I-B躍動する古代豪族
		I-C古代近江の要
奥深い山から扇状地まで、変化に富んだ地形に展開する豊かな歴史文化	テーマII 山の祈りと業（なりわい）	II-A金勝の神仏の風
		II-B山の暮らしと神まつり
		III-Aさまざま争乱
原始・古代から現代まで交通の結節点	テーマIII まじわり・にぎわい・結び	III-B東海道と中山道
		IV-A水でつながる大宝神社（おほたからじや）
		IV-B野洲川と耕地
奥深い山から扇状地まで、変化に富んだ地形に展開する豊かな歴史文化	テーマIV 川と水が紡ぐ村々	IV-C金勝川と葉山川

を祭っています。小槻氏は古代の山林資源を掌握していた氏族であり、奈良時代には栗太郡の郡司を務めていたことがわかつています。郡の中心である役所は郡司の本拠地に営まれたものと考えられ、地の利や、豊富な資源を背景にした地域支配の様子をうかがう事ができると言えます。

TEL 551-0131
FAX 551-0149
岡スポーツ・文化振興課

令和6年度スローガンコンテスト
優秀賞 SNS 軽い投稿 重い責任